

標準委員会 システム安全専門部会 シビアアクシデントマネジメント分科会  
第33回シビアアクシデント マネジメント分科会議事録

1. 日 時 2017年11月2日（金） 13:30～17:30
2. 場 所 三菱重工 品川ビル 305会議室
3. 出席者（敬称略）  
（出席委員）植田主査（電中研），鎌田幹事（原安進），柴本委員（JAEA），及川委員（東芝），織田委員（日立GE），黒岩委員（MHI NS エンジ），倉本委員（NEL），井田委員（日本NUS），竹越委員（関電），涌永委員（中部電）、山中委員（原電），桜本代理（TEPSYS 藤原委員代理）  
(12名)  
（常時参加者）赤堀（規制庁），高橋（原電エンジ），松尾代理（TEPSYS 佐藤常参代理）  
(3名)

4. 配付資料

- S2SC33-1 第32回SAM分科会議事録(案)
- S2SC33-2 人事について
- S2SC33-3-1 システム安全専門部会議事録
- S2SC33-3-2 システム安全専門部会書面投票コメント対応表
- S2SC33-4 誤記チェック対応表
- S2SC33-5 SAM 標準改定案

参考資料

- 参考1 SAM分科会の概要スケジュール
- 参考2 SAM分科会委員及び常時参加者一覧表
- 参考3 PSAM14アブストラクト案（和文、英文）
- 参考4 技術者倫理教育配布資料

5. 議事内容

議事に先立ち，開始時点で委員 16 名中 12 名が出席しており，分科会成立に必要な定足数を満足している旨が報告された。

(1) 前回議事録確認（S2SC33-1）

鎌田幹事より，S2SC33-1「第32回議事録（案）」を用いて，第32回分科会の内容について確認が行われた。確認の結果特にコメントは無く，議事録は正式に承認された。

(2) 人事について

鎌田幹事より、「人事について」(S2SC33-2)を用いて、藤原委員(株式会社テプコシステムズ)の退任の報告と、桜本委員候補(株式会社テプコシステムズ)の委員選任、並びに佐藤常時参加者(株式会社テプコシステムズ)の常時参加者解除の報告と、松尾常時参加者候補(株式会社テプコシステムズ)の登録承認について説明があり、投票の結果、桜本委員候補の委員選任及び松尾常時参加者候補の常時参加者登録が全員一致で可決された。

(3) システム安全専門部会の審議について

鎌田幹事より、「システム安全専門部会議事録」(S2SC33-3-1)にて、システム安全専門部会でのSAM標準報告に関する質疑応答について、説明がなされた。

(4) システム安全専門部会書面投票コメント対応結果について

及川委員、倉本委員、黒岩委員、織田委員より、「システム安全専門部会書面投票コメント対応表」(S2SC33-3-2)及び「SAM 標準改定案」(S2SC33-5)に基づき、審議が必要となるコメント内容への対応について説明があった。

主要な議事を以下に示す。

- ・コメント No. 2 に関連して、標準附属書の表の記載で注記の記載が統一されていない。注記の記載を適切な記載に統一する。
- ・コメント No. 64 に基づき変更記載に対して、ASME/ANS 標準と原子力学会の「外部ハザードに対するリスク評価方法の選定に関する実施基準:2014」が並列で記載されている。附属書 E.1 において、本文規定と附属書例示との関係、経緯について示すように記載する。
- ・コメント No. 68 に関連して、本文の 5.7 b) の記載についてはコメント対応方針で丁寧に説明するように表現を見直す。
- ・コメント No. 110 については、附属書 U の U.1.5 a) の記載を「柔軟性を考慮して手順書、教育・訓練の計画を策定し、かつ組織を整備する。」という表現に訂正する。
- ・附属書 U の序文の記載で、「設計基準事故を超える事故」は、シビアアクシデントとして表現し、「マネジメント」はアクシデントマネジメントで表現を統一する。
- ・附属書 U の記載で、固定設備は恒設設備に変更する。可搬式設備は、可搬設備で統一する。他の附属書等の記載も確認する。
- ・コメント No. 135 については、「低頻度・高影響事象」の定義について、「この標準では、このような事象の中で、発電所脆弱性の摘出において評価の対象外とした事象を低頻度・高影響事象と定義する。」とする。
- ・「低頻度・高影響事象」の定義の、最初に広く使用されている概念であることが解

るように、冒頭に「一般的には」と追記する。

- ・システム安全専門部会鈴木幹事のコメントについては、訂正内容を本人に確認し表現の訂正が必要な場合は、別途連絡する。

(5) PSAM14 への論文投稿、口頭発表について

鎌田幹事より、「PSAM14 アブストラクト案（和文、英文）」（参考 3）について説明がなされた。このアブストラクトについては PSAM 事務局に投稿済みであり、来年の 2 月 23 日期限でフルペーパーを提出する予定である旨の報告があった。

(6) 今後のスケジュール、その他

鎌田幹事より、「SAM 分科会の概要スケジュール」（参考 1）について説明が実施された。次回の分科会は、別途日時を調整する。SAM 標準改定案については、来週前半までに訂正を完了させる。また、来春の原子力学会での標準委員会セッションの候補に SAM 標準が挙げられている、当面は事務局で対応する。

以上